

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 1月 5日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270700281		
法人名	医療法人 光佑会		
事業所名	グループホームじゃんがら		
所在地	平戸市浦の町 730 番地 1		
自己評価作成日	平成 25年 11月 18日	評価結果市町受理日	平成 26年 1月 21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成 25年 12月 17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">協力病院が近く、休日や夜間帯でも緊急時にすぐ対応出来る。また、理学療法士によるリハビリ訓練を年間通じて受ける事ができ、入居者様も楽しみとされ、家族様の満足度が高い。個々に合わせての体調管理や食事提供を行っている。特定施設ケアハウスと併設している為、夏祭り、敬老会、忘年会、新年会等合同で行い、盛り上げた年間行事を開催している。また誕生会では、入居者様の写真つき色紙にメッセージを添えて、全員で祝っている。市街地にあり、観光名所が近隣に点在し、また海もすぐ側に位置しており、屋外活動に出かけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>豊富な魚介類が水揚げされる漁港に面し、教会や博物館の観光名所、或いは、腕湯足湯の温泉スポットが点在する等賑やかな観光地の一角に位置するホームで、入居者は、日常の散歩コースの中で、観光客との挨拶や会話を通して触れ合いの機会を楽しんでいる。</p> <p>法人の介護施設合同で、春は、ひな祭り・お花見、夏は、七夕・夏祭り、秋は、敬老会・ピクニック、冬は、忘年会・新年会等、四季折々の行事を通して、入居者が皆で季節感を一緒に感じ、笑顔で楽しく過ごせる様に多彩な年間行事を計画して支援されている。</p> <p>法人母体医療機関での定期的な健康管理や夜間時、緊急時のバックアップ体制、また、週3回</p>

のリハビリ訓練の継続支援での機能回復や機能維持は、入居者や家族の安心安全へと繋がり、職員の心の支えとなっている。

代表者は、職員の自発的な資格取得を奨励し、法人広報誌“ひらんど”に資格取得者を記載して広く称賛しており、職員は、介護支援に繋がる資格取得を目標に日々、研鑽を積み、プロフェッショナルとして、入居者には、明るく接しており、人としての尊厳を持って介護に当たる等業務遂行に取り組まれている。今後、益々、期待の持てるホームである。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が目にする食堂や職員トイレに掲げ、毎朝・朝食前に利用者と一緒に言葉で発し、意識を高めている	母体医療法人設立からの理念を掲げ、朝食前に職員と利用者が一緒に唱和し共有している。また職員は、入居者の気持ちを汲んで優しく接し、適切な対応で取り組み、理念の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設のケアハウスの入居者とイベントを一緒に行ったり、施設周辺の散歩や通院時挨拶を交わしている	リハビリ通院時の知人との会話や、散歩を兼ねた買い物で商店街住人への挨拶を通じて、地域と交流しながら生活が出来ている。毎年、クリスマス時期には、音楽グループの慰問があり、入居者、職員との楽しい交流が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や施設見学などに説明を行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設サービスの取組状況や結果報告を行い、要望も聞いている	運営推進会議は、家族からの意見 要望等、意見交換の場として活用されている。災害対策の取組状況や、外部評価での結果報告等、次会の議題を考案されており、サービス向上の取組に意欲を持たれている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で、疑問点や確認事項等働きかけを行い、電話や文書で指導を受けている	事務手続きは法人で一括管理されている。運営推進会議には市職員の参加があり、意見交換の場になっている。電話での相談や窓口訪問等で協力関係を築くよう取り組まれている。運営推進会議での参考資料は持ち帰られているが、今後、市町との振興を図るためにも議事録を提出されると更に良いと思われる。	

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当法人全体で身体拘束をしないケアに取り組む、職員同士で話し合い、意識を高めている	看護師は、長崎県主催の“身体拘束排除”研修に参加、職員は勉強会でその内容と弊害を認識している。入居者の介護度が上がる中、慣れ合いから、配慮不足の事態に陥らない様に職員間で注意喚起して身体拘束のないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体で、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修会等に参加し、必要な人には、関係機関と連携を持つようしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取り、家族に説明を行い、理解納得されているか、確認している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の態度や言葉から、不安や要望を聞くようにしている。家族に対しても面会時、状況を説明したり、運営推進会議でも要望を聞くようにしている	入居者家族は遠隔地居住の為、面会者は限られている。職員は、面会が少ない入居者家族には、電話でのやり取りを通じて、要望や意見の傾聴に努められており、聞取りした意見は介護プランへと反映されている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の管理者会議では、法人全体の管理者の意見を聞き、今後の動向と対策を検討している。またグループホーム会議やじゃんがら会議では、現状報告や・検討をしている	法人の管理者会議、グループホーム会議、じゃんがら会議と意見交換の場は多々、設けられている。出された意見は検討され、迅速に改善に繋がられている。直近では、脱衣所に手すりが設置され、職員の提案が、運営に反映された。	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>資格を取得した職員へは、年年度努力賞として金一封を出す</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年2回の賞与の際に、管理者と個人の評価を見ている</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>なるべく行いたい</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居申し込みに目を通し、生活歴や環境等職員が理解し対応する</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の困り事や不安・要望は出来る範囲で対応している。面会時は、日常の様子を説明し、信頼関係に努めている</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>施設の便利性の説明を行い、対応している</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの性格や習慣を把握して、生活作業を一緒に行い、信頼関係に努めている		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時近況を説明したり、電話連絡を行ったり、本人の気持ちを家族と共に支える事が出来るようにしている		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩やドライブに出かけ、自宅に行ってみる等している。面会時は、個別に会話ができるようにお茶を出して、くつろいでもらっている	理髪店や、お墓参り、月1回の外泊や近隣へのドライブ等は、家族や法人運転手の協力を得ながら出掛けており、一人ひとりの馴染みの人や場所との継続が途切れない様、支援に努めている。親戚、知人の訪問には、職員も同席することがあり、馴染みの関係の把握に努めている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルを囲むように席を設け、会話が出来るようにし、ゲーム等も行っている		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された場合でも入院先を訪問したり、家族の相談時は、必要に応じて対応している		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を尊重し、好みや楽しみ、身体的負担に配慮し、無理のないように支援している	毎日の支援の中での声かけで、思いや意向の把握に努めている。根気よい言葉掛けや、ジェスチャーで意思疎通を図り、表情が乏しい入居者が声を発するようになった事例がある。入居者の思いや、意向は申し送りノートに記録したり、言葉での伝達で職員間の共有を図っている。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に在宅ケアマネージャーや担当医師より情報を受け、本人や家族と面談を行っている。入居されてからも情報を得ている		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各勤務での生活状況を確実に申し送り、状況や状態を把握している		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時は、3日間生活情報収集を行い、本人や家族の要望を伺い、職員間でカンファレンスを行い、介護計画書を作成している	支援経過記録を基に本人、家族の要望を聞いて全員でカンファレンスを行った後、計画作成担当者が作成し、家族の同意を得て実践されている。プラン見直しは6カ月であるが状況変化での対応もされており、モニタリングは1ヶ月毎に実施されている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別ケア記録を行い、申し送りノートや職員との会話の中で情報を共有している		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外出や外泊は、車まで見送り、介護タクシーでの外出支援も行っている		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力病院以外の受診には、介護タクシーを利用する支援をしている		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力病院である北川病院と林歯科医院を利用し契約時に、説明し同意を得ている。受診は、定期的に行い、病状によって通院介助を行っている</p>	<p>入居者全員が母体医療機関がかかりつけ医となっており、日々の健康管理や、緊急時、夜間時のバックアップ体制が整備されている。皮膚科、精神科等受診は家族に協力を得ており、受診結果は、主治医や職員へ報告される等、適切な医療を受けられる様に支援されている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師に相談している。看護師不在の日には、法人内の看護師に相談し、協力を得ている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>協力医療機関とは、密に連携を取り、情報提供を行っている。他の医療機関は、状況説明を受診時に提供している</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族の意向を段階的に伺い、確認し、主治医と相談している。ミーティングでも情報を共有している</p>	<p>看取りの経験はない。看取り指針は、入居時に説明されており、必要に応じて主治医を交えた話し合いがなされ、ホームで出来る最大の支援に取り組まれている。母体医療機関のバックアップ体制は、本人、家族、職員にとっても安心へ繋がっている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>協力病院(北川病院)が向かい側にあり、連携を取り、即対応している</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>併設のケアハウスと合同避難訓練を年2回行っている。緊急時の連絡方法を懐中電灯に取り付けて慌てないようにしている。訓練は、地域の人にも連絡している。</p>	<p>年2回昼間想定法人合同自主訓練が実施されている。法人各施設職員による「風水害対策委員会」での月1～2回の会議で火災や自然災害等、同委員が中心となって、自主対策を検討中である。平成26年1月23日には消防署立会の下、夜間に夜間想定で地域住民参加の災害訓練が予定されている。</p>	<p>個別ファイルは準備されているが、簡素化して緊急持出ファイル(既往症、服薬状況等付記)として整備されることが望まれる。法人全体での飲料水の備蓄はあるが、緊急時の食料品、生活必要備品を再度、検討し、賞味期限把握の為、一覧表を作成され、一括管理されることに期待したい。</p>

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<p>個々の性格を知り、利用者の立場に立った対応に心がけているが、時に介護者の感情が入る時がある。</p> <p>毎年、外部講師を招き、全職員参加必須の“接遇研修”がある。職員は、入居者一人ひとりの人格を尊重して介護に当たることの使命感を持たれている。慣れ合いになり、配慮不足の事態に陥ることがない様に職員間で注意喚起し、誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけている。</p>
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<p>自己決定ができるわかりやすい説明をしたり、尋ねやすい姿勢で声かけるように心がけている</p>
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<p>個々の過ごし方を知り、日課を説明し、一人ひとりのペースに合わせようとするが、介護の都合で支援する事もある</p>
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<p>入浴後化粧水の塗布や不定期だが、散髪の支援を行っている。服装は、行事や外出の時は、本人の希望に沿えるように支援している。</p>
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<p>毎食温かいものを提供できるように心がけ、配膳時メニューの説明も行う。食べる際ゆっくり食べるように声かけしている。食材の準備やテーブル拭き等出来る事をして頂き、摂取量のチェック表を作成し記録している。</p> <p>週4回の昼食以外は配膳サービス業者を利用されている。献立は、法人の管理栄養士により管理されている。入居者は壁に掲げた1週間分のメニュー表を職員と共に、見ながら話題に挙げ、おやつの話に花を咲かせて楽しんでおられる。入居者の下ごしらえ等の調理参加もある。</p>
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<p>法人の管理栄養士が献立表を作成し、栄養バランスを計算している。嚥下状態によって食材を刻んだり、ミキサーにかけたり、トロミをつけたりしている</p>
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<p>毎食後の歯磨きの声かけ見守り、出来ない方は、義歯洗浄を行い、夜間ポリデント洗浄を行っている。感染症の疑いのある方は、個別に口腔ケアを行っている</p>

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握し、昼間は、トイレでの排泄介助を行っている。夜間は希望を聞いて、ポータブルトイレを設置し、声かけ介助している	排泄チェック表でのパターン把握のみならず、入居者の表情や動作を察知し、トイレでの排泄を支援されている。誘導により、ポータブルを外し、トイレでの排泄へと繋がった改善例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に心がけ、排泄チェック表とカルテ記入で確認している。便秘の方は、主治医へ報告、相談して便秘薬の処方を受け、与薬している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の曜日を設定しているが、状態によって入浴出来ない時は、シャワー浴にしたり、本人の望まれる湯加減や時間を調整したりして楽しめる	週3回マンツーマンでの対応で支援され、必要に応じて清拭もある。お茶やミカンの皮や菖蒲湯等で季節を感じながら楽しく入浴して頂いている。日曜日は足浴介助で爪のケア等清潔保持を図られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合せた照明や室温調整、寝具の持込みや体交枕等を使用している。夜ゆっくり眠られよう昼間の離床を促している。習慣的に不眠の方は、睡眠導入剤の処方を受け、与薬している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の効能や副作用の一覧表を個別台帳に綴り、確認している。新薬処方や臨時薬や変更時は、申し送りノートに記載し、確実に伝えている。与薬は、2人で確認している		

48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習字、カラオケ、行事で使う物作りや洗濯物干し、たたみや食材準備の支援をしている。リハビリやコーヒーを飲まれたり、個々の好みに応じて支援している		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に合わせて、散歩やドライブ、買い物の支援をしている。家族の協力と介護タクシーを利用され、お墓参りをされている	天気がいい日は、短時間であっても散歩や、車椅子での外出で、気分転換を図っている。職員がピクニックを提案し、お弁当持参で近隣“交流広場”へ出掛け、入居者、家族、職員共々、大いに楽しまれた。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かっている方は、本人の希望の品物や必要時身の回りの品物を購入支援している		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される時や贈物が届いた時に、家族と会話ができる要の支援している		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には、ドライブの写真や施設の広報誌、献立表を貼り、楽しまれるようにしている。季節の置物や花を飾り、季節感を取り入れている	花が好きな入居者の為に季節の生花を絶やすことなく飾り、目で楽しんで頂いている。窓からの日差しが差し込むリビングは明るく開放的で遠くの山々が望め、入居者がゆったりと過ごせるように工夫されている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士会話をされて楽しまれたり、好みのテレビを観たりされている。馴染みの場所で居眠りされている		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやテレビ、寝具の持ち込み、家で使っていた小物、家族の写真、宗教の守護等持込まれ、本人の居心地を工夫している	ベッド、書棚は備え付けで、愛用品の持ち込みは自由となっている。入居者や家族の写真が飾られ、窓には和障子が設置され、落ち着いた居室となっている。入居者が居室を離れる昼食中に換気をして空気を清浄に保つ様に気を付けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	TVの表示、カレンダー、時計等共用の場所に設置して混乱を防ぐようにしている		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない